



British Politics Today

2013年8月1日
第2巻 第8号

著者 菊川智文,

www.kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 キャメロン首相の「幸運」
- 3 選挙ストラテジスト
- 4 政治家と健康
- 5 石の上にも3年

1. はじめに

7月には暑い日が続きました。多くの英国人は、晴れた暑い日が好きです。顔を日焼けで真っ赤にした友人が、「この天気大好きだ」と言ったので、「ちょっと暑すぎる気がするけど」と言うと、「そうだけど、もう数週間もすると、この天気が懐かしくなると思うので、今この天気を満喫しようとしているのだ」との返事。昨夏は天気が悪く、消費も予想を下回りましたが、今夏はかなり良くなっているようです。

2. キャメロン首相の「幸運」

6月、キャメロン首相率いる保守党で首相への批判が高まった。党首の信任投票が行われる可能性がささやかれ、首相は危機に立っていると思われた。ところが今やその緊張した雰囲気が大きく変わった。首相は、そのよい雰囲気を壊さないよう7月17日に予定していた副大臣、政務官レベルの改造を延期した。

何があったのか。まず、天気がよかった。それにスポーツでは英国人に誇りを持たせる出来事が続いた。ウィンブルドン・テニスで英国のアンディ・マリーが男子で77年ぶりに優勝した。自転車のツール・ド・フランスで英国のクリス・フルームが優勝した。ラグビーの英国地域全体から選出されたブリティッシュ・ライオンズがオーストラリアで活躍、さらに英連邦でたいへん人気のあるクリケットのアッシーズでは、イングランドがオーストラリア相手に善戦している。

その上、チャールズ皇太子の長男ウィリアム王子とキャサリン妃に長男が誕生。しかも景気が予想以上に回復しており、多くの国民が将来に楽観的になっている。

キャメロン首相らの努力も見逃せない。6月末のスペンディング・レビューでは、昨年の予算発表でのオムニシャンブルズと呼ばれた失敗を繰り返さないよう気を配った。

また、保守党内で反発の大きかった課題への対処がある。キャメロン首相が約束したEUに留まるかどうかの国民投票の2017年末までの実施は、連立政権を組む自民党の反対で政府提案できないが、議員提出法案とし、保守党として取り組んでいる姿勢を示した。また、同性結婚法案は、自民党と労働党の賛成で一挙に法制化してしまい、火種を除いた。また、首相は、危機を回避するため、保守党下院議員のためのバーベキューを催すなど懐柔策を講じた。

さらに懸案だった、イスラム教過激派説教師を本国送還することに成功し、支給額が大きすぎる場合があると批判の強かった福祉手当に上限を設け、評価された。一方、労働党の総選挙候補者選定への労働組合の関与問題で、労働党が苦境に立った。

キャメロン首相の選挙ストラテジストのリントン・クロスビーの戦略が効いてきたという見方もある。英国独立党(UKIP)支持が下降し、首相が保守党の劣勢を回復できるかもしれないという期待を醸し出したのは大きな成果である。キャメロン首相の危機は当面回避された。来年になると2015年5月に予定される総選挙が近く、党首交代などの動きは出ないと見られている。幸運は待っているばかりでは恵まれないうた。

英国では、8割近い人が君主制の継続を望んでいる。
<http://www.ipsos-mori.com/researchpublications/researcharchive/poll.aspx?oltemId=122&view=wide>

3.選挙ストラテジスト

キャメロン首相の選挙ストラテジストとして、保守党の2015年総選挙の準備をしているオーストラリア人のリントン・クロスビーにマスコミの焦点があつた。本業がロビイストで二つの役割に「利害の対立」があるのではないかと疑いがあつたためだ。

それでは選挙ストラテジストはどのようなことをするのだろうか？選挙に勝つ、もしくは逆から見ると、逆境にあつても選挙に負けない、さらには党勢を増進させるなどという目的もあろう。クロスビーと前回の総選挙まで保守党の選挙戦略で大きな役割を果たしたアッシュクロフト卿について触れておきたい。

まず、アッシュクロフト卿(1946年3月4日生)は、2001年、2005年、それに2010年の総選挙で大きな影響力を発揮した。一代で億万長者となったビジネスマンで、ビジネス感覚がある。目をつけたのは、選挙区で、当選者と次点の差の少ないいわゆるマージナル選挙区である。英国は日本と同じ二院制で上院と下院があるが、上院議員は公選ではなく、下院は一つの選挙区から一人だけが選ばれる小選挙区制だけで、日本のような比例代表制はない。

英国では、一般に、浮動票が少なく、どの党に投票するかを決めている人が多い。時には例外もあるが、選挙運動は、政党支部が中心となり、誰に投票するかというよりもどの党に投票するかとなる。しかし、当選者と次点の差が少ない場合、その選挙区で積極的な活動を行い、政党と候補者の知名度を上げれば、浮動票を動かし、わずかな票の動きで当選を勝ち取ることが可能である。

アッシュクロフト卿は、それを実行するため、対象選挙区を決め、自分と同志がお金を出し、積極的な事前運動を行わせた。それぞれの選挙区の計画を策定させ、その実施状況を管理、自分のお金で選挙区内の世論調査を行い、それを計画に反映させた。この活動が2001年と2005年にかなりの成果を収めたために、下院は、選挙の事前運動の支出制限を2010年1月から導入したほどである。

しかし、2010年総選挙では、三党党首討論が行われ、自民党に予想外の注目が集まったために計画が狂った。アッシュクロフト卿は、もし党首討論が行われなかったら保守党は単独で過半数を占めていただろうと見ている。また、選挙戦全体の戦略はオズボーン現財相が担当し、選挙戦略そのものが分裂していたという反省がある。

一方、クロスビー(1956年8月23日生)は、マージナルの選挙区に注目する手法は似ているが、より包括的な方法を取る。政策というよりもメッセージが最も大切だとし、明確で一貫したメッセージに専心することが必要だと考えている。議論の多い経済、移民、福祉支出などの課題を大胆に捌き、他党とはっきりと差別化する。自分に完全なコントロールを求める強引な人物で、口汚いが、労働党の強いロンドンで2008年と2012年の2回、保守党のボリス・ジョンソンに市長選勝利をもたらした。その前には、オーストラリアでジョン・ハワード首相の連続勝利に貢献した。

クロスビーにとって最も重要なのは焦点を絞るということのようだ。独自の世論調査で裏付けを取りながら、それまでの経験と勘で分析し方向性を見極めていく。そしてこれらをもとに基本的なストラテジーを作り、使命感を持ってそれを徹底的に追求していくというものだ。

クロスビーのような人物が日本でどの程度効果があるか疑問だが、その手法はたいへん参考になる。科学的な裏付けを最大限利用しながら、政治の筋目や方向性、それに世論の動向の見極めができる人が選挙ストラテジストと言える。

「選挙民は愚かでない」

クロスビーの基本方針は
<http://www.crosbytext.or.com/campaigns/>

チェルシー・フラワーショウで妻が買ってきた球根から育てたユリ



4.政治家と健康

テリーザ・メイ内相が 1 型糖尿病と診断されたことを公表した。このタイプの糖尿病では血液中の糖分を抑制するインスリンを生む機能がほとんど無くなるため、インスリンを注射する必要がある。メイ内相の場合、1 日 2 回注射する必要があるそうだ。

この発表後、糖尿病を持つ億万長者のアッシュクロフト卿らが、メイ内相の糖尿病はその仕事に影響ないとメイ内相を応援した。

アッシュクロフト卿は、保守党の有力ウェブサイト ConservativeHome のスポンサーであるが、その大会でメイ内相が内務省に関係のない分野まで含んだスピーチを行ったことでキャメロン後の党首の座を狙っているという憶測が広まった。メイ内相の野心は、それまでにも噂されていたことだが、それが一挙に表面化したのである。

メイ内相は、保守党が野党時代の 2002 年、女性で初めて幹事長に就任した人物である。非常に難しいと言われる内務省を担当し、課題の移民の大幅削減を推進中だ。またイスラム教過激派説教師を本国のヨルダンに送還した。これは、内務省にとって 8 年越しの課題であった。欧州人権裁判所などが何度も送還を否定する判決を出したが、ついにはヨルダンとの間に条約を結んで送還条件を満たし、成し遂げた。

(続く)

住宅価格の上昇するロンドン



雑記

2012 年の夏、英国はロンドンのオリンピックそれにパラリンピックの成功で沸いた。その経済効果が費用を上回ったという報告書が出されたが、これはほとんど粉飾決算だという批判がある。それでも多くの国民にはよい記憶が残っている。

1 周年記念イベントが国際陸連のダイヤモンド・リーグも兼ね、オリンピックスタジアムで 7 月 26 日から 28 日まで行われた。27 日にその和やかな雰囲気を楽しんだ。昨年ここには、一種の緊張感が漂っていたが、今回は誰もがリラックスしているような印象を受けた。

そこには、ロンドンだけではなく、他の地域、国から来た人も多かった。ロンドンオリンピックで金メダルと獲得した、英国期待の選手、女子七種競技のジェス・エニス=ヒルや長距離のモ・ファラー、短距離のジャマイカのウサイン・ボルトには格別大きな歓声が上がった。

このイベントのスポンサーは、大手スーパーマーケットのセズベリーズである。このイベントのタイトルは、「セズベリーズの記念競技大会」であり、このイベントを放映した公共放送の BBC もそのように呼んでいる。会場内にはセズベリーズの名前が至るところにあり、スタッフはセズベリーズの名前の入ったシャツを着ている。しかも選手の胸につけたゼッケンの上部にはセズベリーズの名前が大きく入っている。新聞各紙は 100 メートルで優勝したウサイン・ボルトの写真を載せたが、ゼッケンは「セズベリーズのボルト」のように見えた。槍投げの槍をリモートコントロールの小さな自動車で着地点から戻していたが、その自動車もセズベリーズの配達車と同じ外観だった。

財政緊縮の折柄、イベントを公共のお金をできるだけかけずに実施し、公共放送ができるだけ安く放映するには、このような商業化はやむをえない流れなのだろう。

4.政治家と健康(続き)

その業績、経歴などから、メイ内相は、キャメロン後の党首の筆頭候補である。メイ内相と並ぶ有力候補の、ロンドン市長ボリス・ジョンソンは下院議員ではなく、もし党首になろうと思えばまず下院議員になる必要がある。その際には、既に自分が身を引くと申し出ている下院議員もいるが、かなり厄介である。

なお、メイ内相の糖尿病が明らかになってからも賭け屋の賭け率にはほとんど変動がない。

かつては例えば78歳のウィンストン・チャーチルが首相在任中に脳卒中で倒れた際、その実態を3か月余り隠しておくことが可能であった。しかし、そのようなことは現代では不可能である。特にインスリンの注射を1日に2回する必要があることを隠しておくことはかなり難しい。

ブレア元首相も心臓に問題があった。病院に運び込まれてそれが明らかになったが、ブレアの場合も近い人たちは、その問題を知っていたようだ。クリントン米大統領が、その話は数年前に聞いていたと話したが、健康問題は、リーダーたちにとっては、そのイメージを傷つける可能性もあり、明らかにされることは少ない。

メイ内相の場合、その発表については慎重な計算があったと思われる。発表の際にメイ内相は党首となる野心を否定したが、この結果、メイ内相の命運がどうなるかは今後の展開次第と言えるように思われる。



ウィンブルドンパーク
の並木道

5. 石の上にも3年

政府の改革が効果を上げていることを実感するには3年はかかると思われる。2010年5月からそれぞれのポストにある、キャメロン政権のマイケル・ゴブ教育相とフランシス・モウド内閣府担当相の例である。

ゴブ教育相は、担当するイングランドの学校の教育水準の向上に力を入れてきた。

その基本は、惰性の教育を排し、学校の現場に大きな裁量権とインセンティブを与え、その成果を厳しく査定する体制の構築である。

教育現場から大きな反発があり、しかもうまく行っていない例もあるが、全般的にその効果が出てきているようだ。特に現場には、ゴブ教育相がいるかぎり、この方向は変わらないという一種のあきらめのようなものがあるように思う。

一方、モウド担当相は、公務員改革、オープン・ガバメント、政府の効率化などに取り組んでいる。公務員改革では昨年6月に発表した計画を推し進めている。これには国家公務員の最も業績の低い1割の人に12か月の向上の機会を与えるが、それが達成できない人は解雇するというものも含まれる。さらに事務次官の任期制や、外部からの大臣サポートスタッフの増加などを推進している。

モウドは政府全体の主要なプロジェクトの査定を政府内部の反対を押し切って発表させた。モウドは保守党の重鎮であり、昨年秋の内閣改造では、現在の準閣僚の地位から正式な閣僚となるという話があったが、それを断ったと伝えられる。

二人ともキャメロン首相から厚い信頼がある。そしていずれもその強い改革への決意を継続的に明確に示している。つまり、これらの人たちはどこにも行かず、この仕事をやり遂げるというものである。しばらくやり過ごしていればよいというものではない。それを多くの人が受け入れ始めたようだ。

信念のある担当者を長期間その地位に留まらせることが改革を成し遂げる一つのカギのようだ。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk